

【近畿 ESD コンソーシアム・学生による ESD 活動書】
奈良市スポーツ少年団野外活動支援 活動報告書

教育学専修 4回生 木下 結等

1. 実施日 2023年8月16日
2. 場所 奈良市青少年野外活動センター
3. 参加者 教育学専修 4回生 木下 結等
国語教育専修 2回生 吉岡 優来
音楽教育専修 1回生 濱本 和律

4. 活動の概要

2023年8月16日に奈良市青少年野外活動センターにて、奈良市スポーツ少年団の野外活動が行われ、その支援を目的として本学ユネスコクラブの学生が参加した。活動支援の具体的な内容は、クラフト活動及びレクリエーションの補助、スタンプの実施などである。

5. 参加学生の学び・感想

私が今回の野外活動支援で学んだことは大きく2つある。1つ目は子供たちへの接し方、2つ目は予期せぬ事態への対応力の2つである。

まず、1つ目の子供たちへの接し方について述べる。今回の野外活動支援には小学4年生と5年生の子供たちがいたが、中には活動の途中で集中力がきれてしまい自分のしたいことを始めてしまう子もいた。その時にその子に対する接し方の難しさを感じた。無理やり連れていくわけではなく、あくまでその子のペースに寄り添うことが重要であると感じた。

次に2つ目の予期せぬ事態への対応力について述べる。当初私たちが考えていた活動がプログラムの関係上行われていた活動と被ってしまうという問題が生じた。その際にほかのメンバーと協力しながら、短時間で私たちの予定していた箇所を修正することが出来た。予期せぬ事態の時にフリーズしてしまうのではなく、私たちが今出来ることは何かということをしっかり考えて実行に移すことが出来たのは私にとって大変大きな意味を持つ野外活動支援になったと感じた。

(教育学専修 4回生 木下 結等)

今回、通常の野外活動支援とは異なり、児童らも初対面であり、全員で一体感を持って行うことが難しかったように感じる。しかし、活動の中で、体を動かさず場面では会話が弾んでいたりと、声を掛け合ったりしていた。交流というのは、言葉だけでなく、「スポーツ」などの体を動かさずでも行うことが出来るということを学ぶことができた。

(国語教育専修 2回生 吉岡 優来)

今回学んだことは子供たちとの打ち解け方だ。スポーツ少年団ということではじめにスポーツの話などをすることで盛り上がり子供たちとの距離が縮まった。早い段階で子供たちとの距離を縮めることで、その後のレクリエーションなどもより一層盛り上がる事が出来た。

(音楽教育専修 1回生 濱本 和律)